

「音」聞えにくい人に

あすは耳の日

補聴器を紹介

3月3日は耳の日。加齢などで「何だか最近耳が聞こえにくい」と思っていないませんか。苦小牧市表町5の認定補聴器専門店、岩崎電子苦小牧補聴器センターの認定補聴器技能者、瀬高靖之店長(40)に、補聴器について聞いた。



瀬高靖之店長

相談して最適なものを



岩崎電子苦小牧補聴器センター

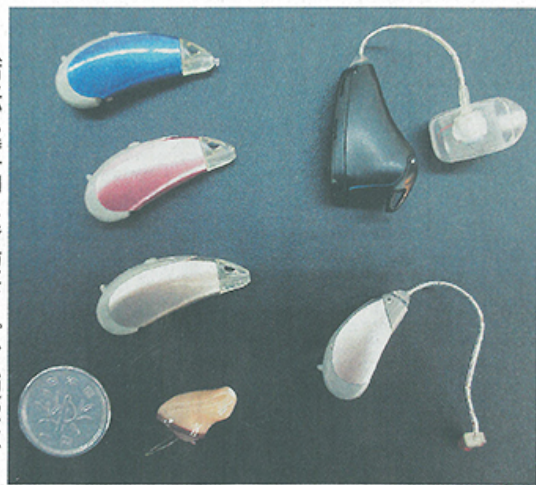
つづつになり人前に出るのを避けるようになりがち。補聴器を着けることで精神面にゆとりが生まれ、人前に出やすくなるということもあるでしょう」と話す。

目立たない補聴器も登場

補聴器は恥ずかしい、年寄りくさい。こんなイメージがある人もいるのでは。瀬高さんは「最近ではファッション性の高いタイプ、気付かれにくいタイプなどさまざまな補聴器があり、着ける人は増加傾向にあります」と話す。

目立たない商品希望する人は増えており、それに対応した同店一番人気は、耳の穴に収まる耳穴タイプ。耳の穴の影になじむよう茶色を取り入れる工夫がされており、着けていることが気付かれにくいオーダーメイド。同店の場合、来店者の多くがこのタイプを選

ぶと言う。実際にスタッフの女性が耳に入れた状態を見ると、この女性のオーダー



(右上から時計回りに) 防水タイプ、小型の耳掛けタイプ、耳穴タイプ、小型耳掛けタイプのさまざまな色のバリエーション

協力店舗 苦小牧市表町5の4の7海見第一ビル1階、岩崎電子苦小牧補聴器センター。電話0144(37)4133。豊富な種類を取りそろえる補聴器専門店。1週間の試用補聴器の無料貸し出し、補聴効果測定、出張サービスなども行っている。

機能型も出ている。同店で取り扱っている商品の場合、価格帯は2万円台〜30万円台と幅広い。定期的に電池の交換が必要になる。補聴器によって電池寿命が異なるが、一般的に年間の電池代は数千円〜1万円程度掛かると言う。

使い始めるタイミングは

高い音、低い音が聞こえにくいなど聴力の状態は個人によってさまざまだが「自分の聴力を知ることが最も重要で、何か不自由を感じたらまず耳鼻咽喉科の受診を」と瀬高さん。病院で補聴器が効果的かが分かるので、必要と診断されたら、病院と連携して認定補聴器専門店での聴力を勧める。補聴器の選び方としては「聞こえ」の状態と個人の希望内容で機種や性能が大きく異なってくるため、専門の技能者がいると安心。「じっくりと時間をかけた相談が不可欠で、専門店との二人三脚でより良い聞こえを目指していくことが重要。補聴器の調整、補聴効果の確認、補聴器の特性測定を行うことで自分に最適な物となっていくはず」と瀬高さんは話している。

難聴は認知症と関連?

独立行政法人国立長寿医療研究センターの調査では、日本の65歳以上の高齢者のおよそ半数に難聴があるとの推計結果が出ている。しかし、補聴器の国内普及率はまだ14%程度にとどまる。イギリスやドイツの30〜40%に比べ低い。聞こえにくいけど大丈夫。こう思っている人はちょっと注意。政府が1月下旬に策定した認知症対策の

強化に向けた「認知症施策推進総合戦略」では、認知症の危険因子の一つとして「難聴」とある。今後の医学界のさらなる研究を待つ必要があるが、補聴器を取り入れることは、認知症予防の一つの切り口になるかもしれない。

さらに、認知症予防策として活発な社会参加、活動などが同戦略で挙げられていることを踏まえ、瀬高さんは「聞こえにくくなると、どうしても人付き合いがお



耳穴タイプのオーダーメイドの補聴器



小型の耳掛けタイプ。髪をおろせばほとんど分からない